
 学 会 記 事

第 15 回新潟 GHP 研究会

日 時 平成 25 年 2 月 23 日 (土)

午後 3 時 30 分～

会 場 ANA クラウンプラザホテル新潟

I. 一 般 演 題

 1 Wilson 病に対する生体肝移植施行 8 年後に
 精神病症状が出現し、胃潰瘍による出血性シ
 ョックを契機に意欲低下や動作緩慢が出現し
 た 1 例

 大竹 将貴・鈴木雄太郎・菊地 佑
 須貝 拓朗・大矢 洋*・堅田 慎一**
 染矢 俊幸

 新潟大学大学院医歯学総合研究科
 精神医学分野
 新潟大学医歯学総合病院第一外科*
 同 神経内科**

Wilson 病の精神症状には知能低下や抑うつに
 加え、幻聴、妄想などの統合失調症様の症状が出
 現することが知られている。我々は、Wilson 病に
 対して家族性アミロイドポリニューロパチー
 (FAP) 患者の肝臓を用いたドミノ肝移植を施行
 し、その 8 年後に精神病症状が出現し、出血性シ
 ョック後に急激に進行した 46 歳男性の症例を経
 験した。

症例は X-10 年に Wilson 病と診断され、X-9
 年に FAP 肝を用いた生体肝移植を施行された。
 その後、X-5 年より様々な心気症状が出現し、し
 ばしば抑うつ症状も出現した。X-2 年に発熱を
 契機に興奮や言動の解体が出現したが、解熱後に
 消失した。X-1 年に「父の声が聞こえる」等の
 幻聴が出現した。X 年 6 月、胃潰瘍による出血性
 ショックを呈し、当院へ緊急入院した。加療によ

り全身状態は改善したが、7 月中旬より言動の解
 体が発生し 8 月 6 日に当科へ医療保護入院した。
 入院時、意識は清明だが、表情平板化や幻視、幻
 聴、被害妄想に加え、四肢の軽度筋強剛を認め、
 特定不能の精神病性障害の診断で、aripiprazole
 を最大 24mg まで投与したが改善は認められな
 かった。その後、risperidone 最大 6mg へ置換した
 ところ、幻視や幻聴、被害妄想は徐々に改善した
 が、意欲低下や動作緩慢、自閉傾向が顕著となり、
 転院加療のため X+1 年 1 月に退院した。

【考察】本症例は抑うつ、意欲低下、心気症状、
 幻視、幻聴、被害妄想を呈しているが、これらは
 Wilson 病の精神症状として矛盾はなく、出血性
 ショックを契機に Wilson 病による精神症状が増
 悪した可能性が最も考えられる。しかし意欲低下
 や動作緩慢、自閉傾向の急速な出現、また X-2
 年の発熱を伴う興奮や言動の解体は、抗 NMDA
 受容体脳炎を含めた自己免疫性脳炎などによる
 脳器質的疾患を疑わせる。今後、可能であれば自
 己抗体測定などの検査を進め、診断を深めていき
 たい。

 2 抗 NMDA 受容体脳炎後の情動不安定、被刺
 激性亢進に高用量クエチアピンが有効であっ
 たと考えられる 1 症例

 菊地 佑・鈴木雄太郎・大竹 将貴
 福井 直樹・大塚 道人・石原 智彦*
 染矢 俊幸

 新潟大学医歯学総合病院精神科
 新潟大学脳研究所神経内科*

抗 N-methyl-D-aspartate (NMDA) 受容体
 脳炎はグルタミン酸受容体の一つである NMDA
 受容体の NR1/NR2 ヘテロマーに対する抗体を介
 して発症する主として卵巣腫瘍に伴う自己免疫
 性の辺縁系脳炎であり、若年女性に好発し、初期
 に統合失調症様症状を呈するため、精神科領域で
 も注目されている。腫瘍摘出、免疫療法等の治療
 により比較的良好な予後を辿るとされているが、
 日常生活上、後遺症を残す例も少なくはない。今